

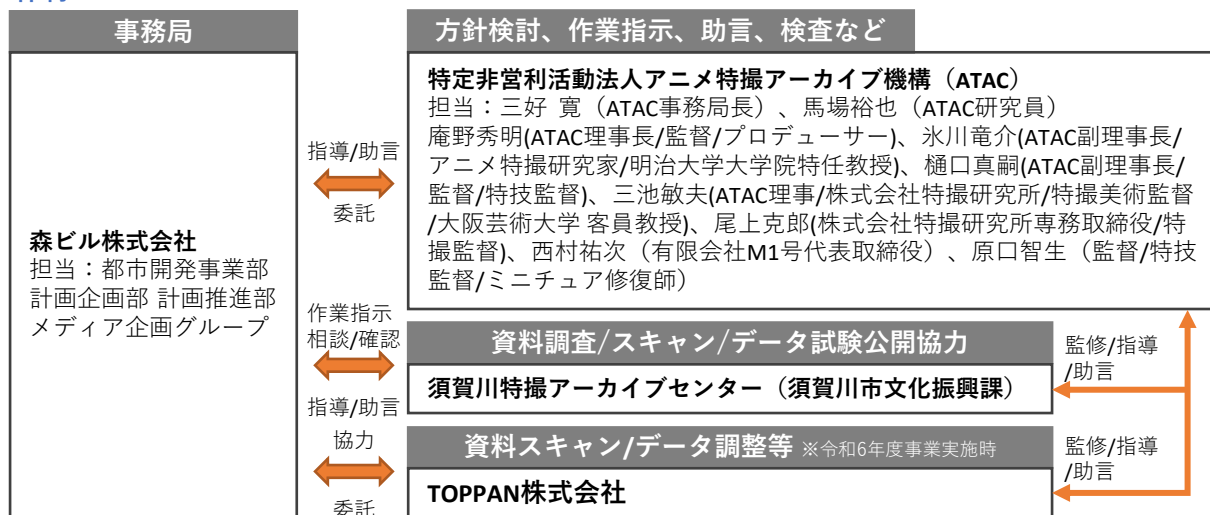
日本特撮アーカイブ

森ビル株式会社

概要／課題

日本特撮アーカイブは、特撮に関する中間制作物の保管・保全を第一の目的としている。中でもミニチュアなど一次資料となる現品は、適切な環境で永続的に保存していかなければならない。また、それらの展示・講演会・ワークショップ・上映会などを通して特撮の魅力を後世に伝えることで、特撮文化の継承に繋げていくことを目指している。

体制



成果

2015～2018年度：ミニチュア類の保存に向けた修復・復元

長期保存、展示等のためにミニチュアの修復・復元を実施。2016～2018年にかけては円谷英二特技監督の最後の長編作品となった映画『日本海大海戦』で使用された全長約6mの戦艦三笠の修復・復元を実施。

2019年度：「須賀川特撮アーカイブセンター」開館に向けた収蔵品のリスト化

須賀川特撮アーカイブセンターで保管される特撮作品に使われたミニチュア・立体造形物・背景画など多岐にわたる品々について、円滑な施設開館に向けて収蔵品のリスト化作業を実施。

2020～2021年度：劣化が避けられない造形物のデジタルデータ化

現物保管が困難と言われてきた着ぐるみなどのラテックス（ゴム）製造形物や大型中間制作物の3Dデジタルアーカイブを試行。

2022～2023年度：特撮美術監督・特撮監督の現場資料のデジタルアーカイブ

東宝の特撮専門の美術監督として活躍した渡辺明氏、1970～80年代の東宝大作路線で活躍した中野昭慶氏、東映の映画/テレビ作品で活躍し、特撮研究所を設立した矢島信男氏らの遺した現場記録写真や直筆絵コンテ等の資料調査・整理・デジタルアーカイブ（2Dスキャン/データ化）を実施。

2024年度：背景画家 島倉二千六氏の背景画の調査研究・デジタルアーカイブ

背景画の専門家であり「雲の神様」と称される島倉二千六氏の描く背景画の調査研究と高解像度デジタルアーカイブ（2Dスキャン/データ化）を実施。須賀川特撮アーカイブセンターHPで成果レポートを公開中。

<https://s-tokusatsu.jp/archive/>



ミニチュア類の保存に向けた修復・復元



「須賀川特撮アーカイブセンター」開館に向けた収蔵品のリスト化



劣化が避けられない造形物のデジタルデータ化



渡辺明氏撮影の記録資料の2Dスキャン/データ化



島倉二千六氏の背景画の2Dスキャン/データ化

【残された課題】

現在も数多くの特撮中間制作物の廃棄/散逸が続いており、保存されていても保管場所の維持や継続が困難なケースも各所で見られる。文化財産としての特撮中間制作物の保管・保全を今後も継続的に進めていくことはもちろん、アーカイブを担う人材の育成も課題である。

【公開方法/文化的・社会的・経済的な意義】

須賀川特撮アーカイブセンターにおける特撮関連中間制作物等の公開ならびに講演会・ワークショップ等を実施。各種展覧会等への展示協力、須賀川特撮アーカイブセンターHPでの実施レポートの掲載も併せて行い、それらの活動を通して特撮文化の普及啓発を行っている。